

大会時・コロナ禍での取組

- ・東京2020大会に備え、検討を開始（打合せは最低限に、定期的な運行を行うルート便が厳しくなること、スポット的な運航がある場合は延期もしくは時期をずらす等）

人の流れ

きっかけ

 以前より実施 オリバラ コロナ禍

- 営業車等の利用削減
- 計画的な休暇取得の促進

物の流れ

きっかけ

 以前より実施 オリバラ コロナ禍

- 取引先との配送に関する調整
大会時は配送遅延があることを顧客にアナウンス
- 配送ルートの変更
一部配送ルートの変更を検討するも、コロナ禍の影響もあり、実際には変更なし
- 積荷・配送のサイクルの見直しによりトラックドライバーの拘束時間を削減
これまで空荷で倉庫に戻っていた工程をなくし、直接会社に戻るサイクルとすることで1時間短縮

取組ポイント

- 働き方改革の5日以上の有給休暇取得に向けて会社側から計画的な休暇取得を促進

取組ポイント

- 2020TDM推進プロジェクトからの情報をPDF化し、その都度、顧客に情報提供
- 交通渋滞により、配送ができなくなることも想定し、事前に対策（夜間配送）を検討

今後の取組

人の流れ

継続して取組を実施予定

- 計画的な休暇取得の促進

物の流れ

- 今後、同様の大きなイベントが開催される際には、今回の取組を活用予定
- 運送会社における時短や働き方改革への対応については今後の課題

【東京2020大会を振り返って】

- ・東京2020大会で混雑が出ることを把握・予想できていない事業所もあった。また、混雑発生が予想されていても影響度合いが分からないので対策が進められていない事業所もあった。
- ・東京2020大会期間中は、コロナ禍の影響もあって道路は空いており、配送ルートの変更も実施しなかった。
- ・運送業界における2024年問題については、コストだけでなく仕組み自体も変えていく必要があると感じている。
- ・トラックドライバーの拘束時間を削減するため、荷積み・配送・戻りの流れを見直すことで、少しでもこれに貢献できる取組を推進している。